

＜ 今日の説教のポイント ルカによる福音書 22 章 1～6 節 ＞

1 気になる「ユダの中にサタンが入った」(3)。

ユダに入ったサタンがユダを支配し、人を変えてしまうかのように考えるならそれは違います。ルカ福音書 4:1-13 では、荒野で悪魔によって誘惑を受けた主イエスが聖書の御言葉を正しく用い、神様への信仰を示して悪魔を退けます。得体の知れないサタンや悪魔といった存在を恐れることより、それらは退けることができると聖書がはっきり記している理由を見つめることが大事なのです。また、「誘惑」は聖書では「試練」とも訳され、私たちの神様への信頼が試される意味で訳される言葉です(ヤコブの手紙 1 章)。悪魔もサタンも聖書の神様への信頼によって恐れる必要なしなのです。

2 受難物語の重要語「引き渡す」(4,6)。これが持つ二つの意味。

「引き渡す」は、これからの受難物語に何度も出て来る重要語です。一つは、「イエス様を敵の手に渡す(ユダの場合も)」意味で、もう一つは、「イエス様が父なる神様に全てをゆだねられる(ルカ 23:46)」意味で出て来るのです。人間の罪深さが神の子主イエスを十字架の死に追いやったのは確かです。そこに私たちの中にある大きな罪を見なければなりません。しかし、神の子殺しという、思いもよらない私たちの大きな罪の出来事の中に、実は、それこそ、さらに思いもよらない神様の大きな救いの出来事が盛り込まれていたのです！ 神の御子が、私たちの罪に伴う罰(死)を自ら進んで負って下さる(委ねます、の意味するもの)出来事です。この神様の破格の恵みを知って、なおこの神様に従って行かない選択があるのでしょうか？！

3 聖書が示すユダが裏切った理由は明瞭。そこから考える。

なぜユダがイエス様を裏切ったのか？ その理由を聖書が示していること以外に色々考えてもあまり意味ないと思います。聖書が示している理由は、ただユダの金銭的欲望の強さです(5, マタイ 26:15, I テモテ 6:10)。私たちの回りにある様々なものが私たちを神様から引き離そうと誘惑することは確かです。しかし、その時、私たちは、それは私たちの神様への信頼が試されているのだと思い、喜んで神様を信頼して歩む道を進み続けようではありませんか！ そうすればいい、そういう道がしっかり示されていると思えばいいのではないのでしょうか。